

## 要旨

### I 研究の背景

重症外傷患者は受傷による生体的侵襲を受け、侵襲的治療を受けざるを得ない状況の中、人工呼吸器管理下で鎮静治療を行う。しかし、看護師は患者の反応からどのように鎮静に関する意思決定しているのか明確でない。そこで、本研究では重症外傷患者に対して、安全・安楽の確保、また合併症の早期発見に向けて、必要な鎮静深度かを判断し、どのように適切な鎮静を図ろうとしているのか看護師の意思決定を明らかにする。

### II 研究目的

看護師が人工呼吸器管理下で鎮静中の重症外傷患者に対して、安全・安楽の確保、また合併症の早期発見に向けて、必要な鎮静深度かを判断し、どのように適切な鎮静を図ろうとしているのかという看護師の意思決定を記述し構造化する。また、適切な鎮静を支援する継続教育や看護実践への考察をする。

### III 研究方法

本研究は、重症外傷患者の適切な鎮静を図るための看護師の意思決定について、その構造を探究する質的記述的研究である。対象はクリティカルケア領域の勤務している看護師7名。データ収集は半構造化面接とした。分析はグラウンデッド・セオリーを用いた継続的比較分析を行い、質的研究の専門家、成人看護学急性期領域の大学教員からスーパーバイズを受けて信頼性の確保に努めた。また本研究計画は、聖路加看護大学の倫理審査委員会の承諾を受けている。

### IV 分析結果

分析の結果、重症外傷患者の適切な鎮静を図るための看護師の意思決定は、コアカテゴリー『患者の生命を維持するための鎮静治療が健康問題の発生に関係する』を中核に、5つの主要カテゴリー、①[重症外傷患者の侵襲的な治療に対して乗り越えられる術を認識する]、②[患者の生命を維持するために生体的侵襲を統合的に判断する]、③[患者の生命を維持するためのバランスを見守る]、④[患者の生命を維持するためのバランスの崩れを整える]、⑤[患者の生命を維持し患者の身の周りのバランスを保つ]が関連し展開するプロセスとして構造化された。また、各主要カテゴリーは以下のように15のカテゴリーから構成されていた。

①は5つのカテゴリー【重症外傷患者についての特徴を把握する】、【重症外傷患者の余計なエネルギー消耗を抑える】、【患者の生命を維持するために効果的な鎮静深度で進める】、

【患者の治療を進める過程で鎮静管理の難しさを知る】、【患者の苦しい時期の記憶を喪失した方が治療経過にはよい】から構成され、重症外傷患者の病態の特徴を把握した上で、効果的な鎮静深度を図りながら侵襲的な治療を乗り越えられる術を認識することを意味する。

②は4つのカテゴリー【患者の生命を維持するために生体的侵襲を把握し必要な鎮静深度を判断する】、【患者の痛みや苦痛、辛さ、苦しさを推し量り見極める】、【患者の危険行動を防ぐため推測し見極める】、【患者が次の段階に進めるタイミングを判断する】から構成され、鎮静治療が生命を維持するために必要であると認識する共に、生体的侵襲を統合的に判断しながら、回復過程に進む次の段階のタイミングを図っていることを意味する。

③は1つのカテゴリー【患者の生命を維持するバランスを見守る】から構成され、患者の状態に合わせ必要な鎮静深度と生命を維持するバランスを保ちながら、安定した状態を見守ることを意味する。

④は3つのカテゴリー【患者の生命に対して緊急性を要するために効果的な方法を行う】、【患者の病態の回復を助けるために鎮静と合併症のバランスを図る】、【患者の危険行動により生命を維持することができなくなる責任の重さを感じる】から構成され、生命を維持するバランスを崩した患者に効果的な方法で合併症とのバランスを図りながら、生命を維持する責任の重さを感じることを意味する。

⑤は2つのカテゴリー【患者の生命を維持するための安寧のバランスを評価する】、【患者にICUの特殊な環境を考慮した生活リズムを調整する】から構成され、患者の生命を維持するための安寧のバランスを評価し、ICUの特殊な環境を考慮した生活リズムを調整することで、人間らしい日常生活に近づけることを意味する。

## V 結論

看護師は、重症外傷患者が侵襲的な治療を乗り越えられるように、『鎮静治療が健康問題の発生に関係する』ことや[重症外傷患者の侵襲的な治療に対して乗り越えられる術を認識]しながら、[患者の生命を維持するために生体的侵襲を統合的に判断]していた。常に、生体的侵襲を統合的に判断し繰り返しながら[患者の生命を維持するためにバランスを見守]り、一方では、[患者の生命を維持するためのバランスの崩れを整え]ていた。さらに、人間として日常生活を送ることができるように[患者の生命を維持し患者の身の周りのバランスを保つ]ように評価していた。看護師は『患者の生命を維持するための鎮静治療が健康問題の発生に関係する』ことを踏まえて適切な鎮静治療を図る必要性がある。